

平成 24 年 3 月 28 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄  
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)  
問合せ先 取締役 庄司 友彦  
(TEL 03 - 6225 - 2207)

## 洪水後タイの経済情勢について

当社の連結子会社である Group Lease PCL (以下「GL 社」といいます。)は、昨年タイ国内で発生した洪水の影響で限定的ではあるものの様々な影響を受けましたことは、既に数度にわたりお知らせいたしました通りです。現在タイの 2012 年の経済成長は順調であるとの公的機関の予想はお伝えしておりますが、現在のタイ国内ならびにリージョンの経済の状況について現地からお知らせいたします。

### 記

#### 1. 本年のタイ経済の現状について

タイ中部地方において昨年8月から11月において発生しました洪水の影響は既に無くなりつつあり、2012年度においてはその復興と、さらなる発展が進んでおります。

タイ中央銀行は既に2012年のGDP成長率が4.9%となると従来予想を上方修正しておりますが、さらに今年2月には中央銀行総裁が、予想を上回る可能性があるとし唆しております。また、タイ国家経済社会開発庁は昨年11月に同予想を従来の4.5%から5.5%に引き上げておりましたが、本年2月20日には再度5.5%から6.5%に引き上げております。当社も復興需要もさることながら、タイ経済のファンダメンタルの強さが成長率を後押しすると考えております。実際、本年1月から2月の対タイ外国直接投資申請は前2011年に比べて92%増と急増しています。

#### 2. タイ国経済のファンダメンタルについて

タイ国経済のファンダメンタルは以下の特徴を持ちます。

- ①食糧自給率特に穀物自給率が高く、また、市中の価格も安いため、根本的に「飢えない国」であり、これを基盤として社会が安定している。
- ②自動車、電子機器などのリージョナルなハブとなっており、典型的な産業クラスターを確立している。
- ③伝統的にインフォーマルセクターや農業事業者が多く、近年これらの「草の根経済」が成長している。
- ④今後経済発展が予想される陸のASEANの中心に位置しており、交通、物流、情報などの分野において、アジアの交差点となる地政学的優位性を有している。
- ⑤タイパーツが周辺の、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどで一定流通していることなど、地域大国として特に経済分野で優位性を有している。

⑥タイ首都・バンコク、カンボジア首都・プノンペン、ベトナム第一の経済都市・ホーチミンがわずか 7 百キロ程度の近距離に位置しており、近年さらに結びつきを強めてメコンデルタ経済ベルトを形成しつつある。

### 3. 現在のタイで起こっていること

- ①上記の現状とファンダメンタルズを基に、タイにおいては首都バンコク、地方ともに経済発展と、所得の上昇が起こっています。
- ②首都バンコク、地方ともに第三次産業が急速に発展しつつあり、日本人になじみのあるところでは、UNIQLO、大戸屋などがデパート、GMS 等を中心に店舗を多数展開してきております。
- ③バンコクでは中心部から周辺部へと開発が拡大しており、特にアジアハイウェイのハブとなるバンコク外環状線ができてから、この傾向がさらに進んでいる。この地域の発展を見込み、最近では欧州資本の IKEA なども進出している。
- ④地方の経済発展を受け、地方都市においてもタイ最大の GMS である BIGC (タイ資本) TESCO LOTUS (欧州資本) などが次々に店舗を展開しつつあります。
- ⑤タイへの外国直接投資は増加傾向にあり、今年になって復興需要も相まって、昨年対比 92%増となっている。
- ⑥タイ国投資委員会は 3 月 19 日現在「被災企業の国外移転はなし」と発表しています。これは、投資員会が恩恵を与えている各企業の中で現在までに海外移転した企業がないことを発表したもので、タイの産業クラスターとしての底堅さを表しています。
- ⑦洪水で被害を受けたホンダが自動車生産を再開するとともに、新工場の建設も発表しているように復興と発展が同時に進行しつつある。



ショッピングモール内のユニクロ



ショッピングモール内の大戸屋



バンコク外周道路沿いにオープンした IKEA

### 4. まとめ

以上のことから復興需要のような短期的要因に加え、ファンダメンタルの強さが、本年のタイ経済の成長を強く後押しすると考えております。また、これらの発展するサービス産業の従業員の通勤手段、あるいは、草の根経済の主役であるインフォーマルセクターのビジネスインフラ、農民の生活インフラとしてオートバイ需要が大きく存在しており、GL 社の市場が拡大すると考えております。

また、タイ国内だけでなく、このような傾向は周辺諸国にも拡大しており、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーなどを含めてリージョン全体が発展しつつあり、同じく、GL 社の潜在市場となっていると考えております。

また、改めてお知らせする内容が判明しました折には皆様に適時お知らせしてまいります。

以上